

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270401195
法人名	医療法人 七久会
事業所名	グループホーム おこんご
訪問調査日	平成 20 年 9 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 27 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人 七久会		
事業所名	グループホーム おこんご		
所在地 (電話番号)	長崎県諫早市小長井町小川原浦656 (電話) 0957-34-2007		
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年9月26日	評価確定日	平成21年1月27日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	15 人	常勤 3 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	12 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	160 円	昼食 320 円
	夕食	320 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成 20年 9月 1日現在)

利用者人数	15 名	男性 1 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 58 歳	最高 105 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山崎医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海を臨む高台に位置するこのホームは、「やすらかな笑顔の追求」という理念を掲げ、職員自ら笑顔を決めず、利用者の意見や希望・思いを尊重し、心からの笑顔で過ごせるように願って支援にあたり、利用者は穏やかに暮らしている。併設の病院は旧来より地域医療に貢献し、地域住民に信頼されており、夜間や休日でも医師や看護師の支援が受けやすく、重度化や終末期を迎えても安心できる医療連携体制が整えられている。職員は、さらなる向上を目指して一丸となり、外部評価の結果を元に計画を立てて改善に取り組んでいる。今後は、利用者とともに食事を作ったり、外出の機会を多くしたり、防災体制をさらに整備するなど、生活面に重点を置いて、地域に根づいた、温かで、利用者主体の体制づくりを行い、理念に沿って、ケアサービスをさらに充実させることを期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では多くの課題があったが、優先順位が高く実践可能なことから計画を立てて改善に取り組んでいる。外出については運営推進会議で話し合い、少しずつ増やしている。調理については、炊飯器やホットプレートを購入し、炊飯やホットケーキを焼くなどの取り組みをしている。介護計画作成については、アセスメント用紙を独自に作るなど、改善への取り組みが見受けられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や一部の職員は外部評価の意義を理解し、今回の自己評価も一緒に行い、前回と比べ取り組んでいることが増えたことを実感している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年3月、8月に開催されている。3月は利用者の体力づくりが討議され、結果的に外出の機会が増えている。8月はテーマを設けず、情報交換や意見交換としたが、活発な意見は出なかった。今後は家族が意見を出しやすい雰囲気をつくるとともに、様々な協力を働きかけるなど、多くの問題解決の場として活用され、会議録を残すよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会が多く、その機会に利用者の健康状態や暮らしぶりについて報告し、意見なども伺えるように働きかけている。現在のところ文書での報告は行っておらず、面会が少ない利用者への報告が十分でない為、ホーム便りの作成や写真を用いた報告などを検討している。玄関に意見箱も設置しており、意見や苦情に対してはすぐに対応する体制にはあるが、意見や苦情などは少ない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は近隣の人が多く、併設の医院に訪れる人は、利用者の馴染みの人たちが多く、ホームにも訪ねてくれて普段から交流がある。また、地域の町民祭に出かけたりもしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の名称自体が近くにある坂の名前を取ってつけているものであり、地域密着型サービス事業所として、利用者が心から笑顔を見せてくれるようにと願い「やさらかな笑顔の追求」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は採用時に理念の説明を受けるが、その後は特に理念の共有のための話し合いなどは行っていない。しかし、職員は笑顔を忘れず、利用者がどんなことが好きなのか、どんな歌を好むのかなどを把握するように努め、利用者のやさらかな笑顔を求めて、それぞれに話し合うようにしている。	○	年月が経ち職員が変われば理念の理解も様々になってくるので、月に1回のカンファレンスでは理念の共通理解や取り組みについて話し合う機会を設けることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の医院が旧来から地域医療に貢献しており、その併設事業所であることから地域に根づいている。利用者も近隣の人が多いために、以前から交流のあった人たちが気軽に訪ねてくることが多い。町民祭りなどの地域の行事には出かけている。	○	今後は外出の機会を増やし、地域に出向いていき住民と触れ合ったり、ホームで地域に貢献できることを計画したりするなど、さらに地域との交流を深めることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や一部の職員は外部評価の意義を理解している。自己評価は職員の一部と管理者で行い、昨年度よりできていることが多くなり、「変わったよね」と言って感激している。外部評価から見えた課題の多くは優先順位が高く、できそうなところから一つずつ、改善計画シートを作成して取り組んでいる。結果、必要だった物干し場を作るなどの改善が見受けられる。	○	外部評価の結果を受けて改善に取り組んでいるので、次年度は職員全員で自己評価に取り組めるよう、評価の意義について、カンファレンス等で周知することを期待したい。また、改善計画に沿って取り組み、成果を職員全員で共有し、利用者の笑顔に繋がっていることを認識できるように取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員は利用者家族、民生委員、自治会長、スーパー店長、市担当者、医師、看護師、リハビリ職員、介護職員である。今年は3月と8月に開催している。3月は体力づくりについて検討し、外出の機会を増やすことができた。8月はテーマを設けず、意見・情報交換としたが、活発な意見は出なかった。今のところ、会議録は残していない。	○	運営推進会議において、家族の意見が出しやすい雰囲気をつくるよう期待したい。また、外部評価結果の報告と改善計画、防災に関する地域の協力、市の協力など、多くの課題を解決する場として活用し、記録を残して、事業所運営やケアの向上に活かすよう取り組みを期待したい。

長崎県 グループホームおこんご

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とは、運営推進会議以外は関わっていない。	○	グループホームは、地域密着型サービスであり、市からの指導・監督を受けるため、積極的に問題やその解決方法について相談し、連携・協力を求めるよう取り組むことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	多くの家族が頻繁に面会に来ているため、その都度健康状態や暮らしぶり等の報告を行っている。面会が少ない利用者家族には、他の連絡事項と併せて報告している。事業所でお金を預かっている利用者については、金銭出納帳を提示して報告している。緊急時には電話連絡している。今後はホーム便りを作ったり、クリスマスなどの行事の写真を送ったりする計画もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設け、家族の面会の度に意見を聞くようにしているが、取り立てた意見はない。家族会がなく個人での意見は出にくいと思われるので、運営推進会議などを活用して意見を聞くようにすると効果的ではないだろうか。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく、離職者も少ない。離職の時は利用者や家族に事前に説明し理解を得ており、利用者へのダメージは少ない。今後、どのような場合にも利用者の負担を最小限にできるよう、説明や引継ぎの方法を検討すると効果的ではないだろうか。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就職時に理念等の説明を受け、1週間程先輩職員に業務の指導を受けている。その後は、定期的ではないが法人内で行われる、転倒予防、認知症などに関する研修を受けている。外部の研修は、案内を掲示板に貼り出し、興味のある研修には、それぞれに自分の時間を使って参加している。決められた研修報告等はないが、参加した職員が他の職員に内容等を話すこともある。	○	外部の研修を受けることも職員の資質を高めるうえで大切なので、外部研修に参加しやすいよう配慮し、受講者は、その成果を他の職員と共有できるようにカンファレンスの場などで報告したり、報告書を作成したりするなど、職員全員のレベルアップに繋がられる努力を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医師会のネットワークにおいて交流を図っている。また、2ヶ月に1回位の割合で、近隣のグループホームに利用者とともに出向き、敬老会や催事に参加するなどの交流を図っている。グループホーム連絡協議会などへは加入していない。	○	同業者との交流は、情報、悩みや課題の共有などができ、問題解決の糸口をつかむうえで有効であると思われるので、隣接のグループホームをはじめとする地域の事業所と交流を図り、サービスの向上に努められることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は併設の医院からの入居が多く、医院が地域に浸透しているため、既に馴染みの関係ができていることが多い。入居にあたっては家族とともに見学に来てもらっており、入居後はスムーズに生活ができている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に常に寄り添って一緒に過ごしている。また、利用者から味噌の作り方やエプロンの縫製などを教えてもらうなど、利用者から学ぶことが多く、共に支え、楽しみながら過ごしている。これからも利用者が笑顔で過ごす時間が多く持てるよう、さらなる関係づくりが期待できる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの話をじっくり聞く時間をとっている。地元の言葉でじっくり話したり、常に観察をして思いや意向を把握し、実現できるように努力をしている。本人に確認できない状態のときは、家族に確認をしたり、職員同士で話し合ったりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で観察や聞き取りに努め、利用者や家族から意見や希望を聞き、医師の意見を求めるなど情報収集し、より良く暮らすための課題を分析している。計画についても職員同士話し合い、計画作成担当者を取りまとめて計画を立てている。作成した計画は、利用者や家族に説明し同意を得ている。独自のアセスメント用紙を作成したり、介護記録用紙を考案中であったり、日々努力されているので、更に適切なものを求めて取り組んでいただくよう期待したい。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとに見直しを行うようにしているが、実施できていないことが多い。徐々に状態が変化している場合、職員の意見を聞いて微調整は行っているが、記録があつたりなかつたりしている。急な変化があつた場合は、家族や職員、医師の意見を聞いて新たな計画を作成している。	○	後期高齢者が多いこともあり、定期的な見直しはより重要になってくる。支援の記録や経過観察を十分に行い、次回の見直し日を定めるなど、定期的、計画的に見直しを実施し、常に現状に即した計画を作成することを期待したい。

長崎県 グループホームおこんご

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、理美容室利用、自宅への帰宅、墓参り等、希望に副って、家族と相談しながら柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが併設医院をかかりつけ医としている。歯科や皮膚科、婦人科などについても、利用者の希望に副って受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医院に併設されたホームであるため、医師や看護師の協力が得やすい。かかりつけ医もほとんど併設の医院であることから、利用者や家族との話し合いはスムーズであり、早くから終末期のあり方についても相談をしている。夜間は医院の看護師による巡視の協力が得られていることもあり、点滴などの医療行為もホームで行うことができ、過去に看取りを行った経験もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を傷つけることのないよう、言葉かけや対応に注意し、特に排泄の介助などでは、他の利用者の目にも配慮して支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に副って支援している	日課や食事の規制はあるものの、原則としては一人ひとりの希望やペースに副って、その人の生きたいように支援している。利用者の平均年齢が86.7歳と高齢であり、色々な働きかけをしても「そっとしておいてほしい」という反応が返ってくることが多い。		

長崎県 グループホームおこんご

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の副食は、併設医院の厨房から運ばれて来る。ホームでは、炊飯と盛り付けを行い食事をしており、後片付けができる利用者には手伝ってもらっている。おやつはホームで作っており、おはぎを作ったり、ホットケーキを焼いたり、誕生会などではジャンボどら焼きを作ったりして楽しんでいる。	○	基準省令第99条3にもあるように、食事等の家事は原則として利用者と介護者が共同で行うこととなっている。現在、おやつを作る等の取り組みを努力しているが、食事については病院食という感じが否めないため、今後は、週に1回、1食からでもいいので、利用者の希望を取り入れた献立を考え、ともに調理し、家庭的な雰囲気のもと食事を一緒に楽しむ努力を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的にはユニットごとに週に2回、曜日と時間を決めて併設医院の大浴場や機械浴を利用している。この浴場は、デイサービスや医院の入院患者さんも利用し、利用者にとっては馴染みの人々に出会い、おしゃべりを楽しむ良い機会となっている。ホームにも浴室があるので、決められた時間の大浴場での入浴以外の日に、利用者の希望に合わせて活用するよう期待したい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者から希望が出ることは少ないが、利用者の興味や能力に合わせて、エプロンの繕い方を指導してもらったり、カレンダーの絵に色を塗ってもらうよう頼んだり、広告紙のゴミ袋作り、併設医院の病棟のおしぼりたみ、皿洗いを頼んだりすることによって、役割を持ったり、気晴らししてもらえるよう働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームが斜面地に立っているために、利用者が徒歩や車椅子での外出が困難であることと、利用者自身あまり好まないために、日常的な外出は少ないが、日光浴や風景を眺めることができるような努力はしている。	○	外出は、季節感を感じたり、開放感を味わったり、地域の人との交流、気分転換になったりするので、利用者の身体状態等に応じて、交通手段等を確保し、外出が日常の楽しみの一つになるよう取り組まれることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、ホームのすぐ前が国道で交通量が多いにもかかわらず、8時から18時までは鍵をかけていない。玄関には鈴を取り付けているが、常に目配りを怠らない努力をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の医院とともに緊急連絡網を作り、消防署への連絡方法を取り決めている。施設内での避難訓練などは行っているが、地域への協力を得るような働きかけは行っていない。	○	今後は、防災マニュアルや消防計画書を作成し、独自の連絡網を整備し、職員への周知徹底を図り、消防署や警察、地域住民の協力を得て避難訓練ができるよう、運営推進会議を活用するなど、取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもと、栄養バランスやカロリーを考慮し、一人ひとりの状態に合わせて、粥食や刻み食など調理方法に配慮している。摂取量も毎食、主食、副食に分けて記録し管理しているが、水分摂取量は記録していない。水分摂取量の記録については、特に必要な利用者から、記録、管理するとより効果的ではないだろうか。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の居間には、ゆったりしたソファを置き、壁や天井には手作りで季節感のある花や動物、利用者の笑顔の写真を飾り、温かく寛げる雰囲気づくりに努めている。	○	玄関の下駄箱の中身が見えているので、カーテンなどで目隠しをしたり、居間のテーブルに季節の花柄のテーブルクロスを掛けたり、トイレ、浴室等、さらに居心地よく、家庭的な空間となるよう工夫できることを検討することを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備品として、整理ダンス、ベッド、洗面ユニットを用意しており、利用者個々の身体状況や希望に合わせて配置している。また利用者は、大事にしている位牌を持ち込んだり、手作りの作品を飾ったり、馴染みの家具を持ち込んでもらえるよう家族に働きかけるなど、利用者の気持ちが安らぐよう配慮している。		